



朝の陽ざしがやわらかく届いていましたが、気温は低く時折冷たい風が吹いていました。少しずつ気温が上がる中、次々と見つかる植物や昆虫の早春の姿をゆっくりと観察する穏やかな時間を過ごしました。

先月観察した二ホンアカガエルの卵塊のその後を見に行きましたが、オタマジャクシは少ししか見られませんでした。水路ではセリとチドメグサによく似た植物が見られました。チドメグサの仲間にはノチドメ、オオチドメなどがあり、両者には花柄に違いがあるようですので、花の時期にまた観察したいと思います。



二ホンアカガエルのオタマジャクシ



セリ



チドメグサの仲間

中道沿いのせせらぎの周辺では、ヤブジラミの仲間やヤエムグラ、ヘビイチゴなど、さまざまな植物が芽を出して小さな葉が育ち始めていました。ヤブジラミの実とヤエムグラの茎や葉はひつつきむしになります。



ヤブジラミの仲間



ヤエムグラ



ヘビイチゴ

中道の北側のヤマコウバシは枯れた葉がまだ枝についたままの状態でした。子どもが木を揺すっても葉が枝から離れる様子はなく、「落ちない木」として受験生のお守りになるそうです。新しく枝打ちされたアヘマキの切り口と、古い枝打ちの痕を見比べると、時間が経過した方は周囲の組織が切り口を包み込むように盛り上がっていました。植物が傷ついたときに治癒しようとしてできる組織を「カルス」と言うそうです。



ヤマコウバシ



新しい枝の断面



古い断面

ギシギシは春早くに芽を出して早くも葉が大きく育っていました。その葉をめくると無数のアブラムシがついていました。ギシギシアブラムシとのことでした。また黄色がかかったコガタリハムシの卵が産みつけられていて、周囲のギシギシを探すと腹部が大きく膨らんだメスの成虫がたくさん歩き回っていました。



ギシギシアブラムシ



コガタリハムシの卵



コガタリハムシ(♀)





2024年3月

水路の近くの草むらではツクシも見つかりました。そこへ参加者の男の子がカナヘビを捕まえて嬉しそうに見せに来てくれました。カナヘビを家族で飼育したことのある参加者の男性が、雌雄の見分け方やエサについて説明していました。また別の男の子は大きなダンゴムシを手に乗せて見せてくれました。



ツクシ



カナヘビ



ダンゴムシ

先月は田んぼの近くでタネツケバナを観察しましたがこの日はたくさんのミチタネツケバナを見かけました。ミチタネツケバナは外来種で、タネツケバナとは果実の長さやつき方で容易に見分けることができます。つどいの丘へ渡る橋の脇に、見慣れないミントの仲間が生えていました。葉は強い香りがしました。



ミチタネツケバナ



タネツケバナ



ミントの仲間

この日はあちこちでニホンタンポポが咲いているところを確認できました。またノビルがたくさん生えている場所があり、久しぶりに球根を掘ってみました。食べてみた子どもが美味しいと話していました。



ニホンタンポポ



ノビル



ノビルの球根

倒木を調べた参加者が美しい甲虫を見つけました。陽の光で様々な色に光って見えました。後日ナガニジゴミムシダマシの仲間と分かりました。この日はヤママユの繭の抜け殻を2度拾いました。中身を取り出して調べてみましたが、形のない黒い粉状の破片が出てくるばかりでした。最後にシュンランを見に行きました。ちょうど一つ目の花が咲いたところで、別の株には少なくとも4つのつぼみが見つかりました。



ナガニジゴミムシダマシの仲間



ヤママユの繭



シュンラン

観察項目(観察順): アンズの花,ニホンアカガエルのオタマジャクシ,チドメグサの仲間,サルノコシカケ,オオオナモミの切り株,ヒメオドリコソウ,ヤマコウバシ,ギシギシ,ギシギシアブラムシ,コガタリリハムシの卵,コガタリリハムシ,ヤブジラミ,ヤエムグラ,ヘビイチゴ,アベマキの枝の断面,ツクシ,ハクバイ,アオキ,カシラダカ,カナヘビ,ダンゴムシ,ニホンタンポポ,セイヨウタンポポ,ミチタネツケバナ,ミントの仲間,ヤママユの繭,コサギ,ノビル,オオイヌノフグリ,ノキシノブ,湿地,ルリタテハ,カラスノエンドウ,レンゲ,タネツケバナ,ナガニジゴミムシダマシの仲間,エノキタケ,キタテハ,ネジキ,ユキヤナギ,イザヨイザクラ,シナミザクラ,ホトケノザ,ミモザ,シュンラン